

入選

だいすきな、ひいおばあちゃん

徳島県 新町小学校 一年
山本 和紗

わたしには、96歳のひいおばあちゃんがあります。わたしのおかあさんもおとうさんも、おばあちゃんもおじいちゃんも、しごとがあります。だからわたしは、小学校がおわるといつもひいおばあちゃんのいえにかえります。

ひいおばあちゃんは、ながいじかんあるいたり、げんきにあそんだりできません。でも、わたしがかえると、いつもわたしのすきなおやつをいっしょにかいにいってくれたり、ティッシュをまるめてなげて、わたしがよけるゲームをしたりしてくれます。わたしはこのゲームがだいすきです。

ゲームのあとは、

「あつくないで。どれでも、すきなものをのみよ。」

といって、おちゃとりんごジュースとココアをつくえにならべてくれます。ひいおばあちゃんは、わたしのすきなものをよくしているなあ、とおもいます。

まいしゅうすいようびは、ひいおばあちゃんがデイサービスにいきます。デイサービスからかえるのは、ゆうがたの5時ごろだから、わたしが学校からかえるほうがはやいときがあります。だれもない家にいるのは、すこしさみしいです。

5時がちかづくとき、とけいをなんどもみてしまいます。ひいおばあちゃんがかえってきて、ドアをあけたしゅんかんはすごくホッとします。いつものやさしいえがおで、

「ただいま。」

といってくれると、とてもうれしいきもちになります。やっぱりひいおばあちゃんがいると、あんしんします。だけどときどき、わたしはすこしはずかしくて、ひいおばあちゃんがやさしくしてくれたのに、

「ありがとう。」

と、いえないことがあります。でも、わたしが、ひいおばあちゃんのでつだいをしたときは、ひいおばあちゃんは、かならずわたしに、「ありがとう。」といってくれます。

そのときは、わたしのこころがあたたかくなって、えがおになります。うれしいです。だから、これからは、はずかしがらずに、

「ありがとう。」

と大きなこえでいえるようになりたいです。そういわれると、ひいおばあちゃんもきっと、うれしいきもちになるとおもいます。

わたしが、もっと大きくなったら、ひいおばあちゃんを、おかいものにつれていったり、おちゃをいれてあげたりしたいです。ひいおばあちゃんに、いっぱいやさしいこえをかけて、たくさんえがおでいてくれるようにしたいとおもいます。

だいすきなひいおばあちゃん。いつもありがとう。ながいきしてね。